

調布市における小中連携教育の推進(案)

本市の児童・生徒の状況及び課題と小中連携教育の必要性

【児童・生徒の状況】

○不登校児童・生徒の出現率について

・年々増加傾向にある。小6から中1で急増し、その要因は、中1での新規の不登校生徒数の増加である。

〔調布市いじめ・不登校調査から〕

○自己肯定感について

・「自分にはよいところがある」「先生は、自分のよいところを認めてくれてる」との質問に肯定的回答をしている小学生は約8割、中学生は約7割である。平成29年度は国や都の平均を上回っていたが、年々差が縮まり、平成31年度は下回っている。

〔全国学力・学習状況調査から〕

○学習状況について

・小中共に良好である。国や都の学力調査において、本市の平均正答率は国や都の平均正答率を上回っている。一方、自らの考えをもち表現することに課題がある。

〔全国学力・学習状況調査、都「児童・生徒の学力向上を図るための調査から〕

○体力・運動能力について

・体力合計点で都と本市を比較すると、小中とも都を下回る結果となっている。反復横跳びや長座体前屈、立ち幅跳びは都を上回る学年が多い。体力合計点の分布では、男子はD層が高く、B層が低い。女子はC・D層が高く、A層が大きく低い状況である。

〔東京都「児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査から〕

○地域との関わりについて

・小中学生とも地域への関心や地域・社会をよくするために何かしたいということについては、国や都と比べて肯定的に回答しているが、地域行事及び地域ボランティア等への参加については、低くなっている。

〔全国学力・学習状況調査から〕

○障害のある児童・生徒等の引継ぎについて

・中学校への進学に際して、安心して過ごしやすい学習環境を整えるとともに、小・中学校の教員間で指導・支援について情報共有し、継続できるようにする必要がある。また、通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童・生徒等の情報も小学校から中学校へ引き継ぎできるようにすることが課題である。

調布市教育プラン

基本方針1 生命をいつくしみ人の尊厳を重んじる心を育てる

基本方針2 「生きる力」を育て 個を伸ばす教育を充実する

基本方針3 学校・家庭・地域の役割と責任に基づいた連携を進める

「中1問題」(「中1ギャップ」)への対応

・小学校から中学校への接続の円滑化

学びの連続性の確保

・系統性・連続性のある知徳体の育成
・小中教員の相互理解と連携(指導力向上)

地域との連携強化

・継続性のある学校への地域支援の推進
・中学校区を単位としたネットワークづくり

一貫した教育支援の充実(特別支援教育)

・地域社会の一員としての基盤となる支援の展開

小中連携教育の推進

学習指導要領

○学校段階等間の接続

(学校段階等間の円滑な接続の工夫)

○家庭や地域社会との連携及び学校間の連携

(教育種別・実施に必要な人的・物的体制への協力、地域における世代を越えた交流)

○障害のある児童生徒への指導

(長期的な視点で児童生徒への教育的支援の実施、個別的教育支援計画・個別指導計画の活用)